

## パート2 ベンダー各社から相次ぎ新製品 プレゼンス活用に新機軸

市場は「UC」を冠する製品で溢れている。では、具体的に何ができるのか。各メーカーは、どのような手法で業務効率向上を実現しようとしているのか。UC製品の今を探る。

「UC」を冠する新製品が次々と生み出されている。それだけに、ともしれば各メーカーがUCのコンセプトの下、どのような取り組みをしているのかを見失いがちになる。

そこで本稿では、製品動向のトレンドを俯瞰するとともに、各メーカーの取り組みを見ていくこととする。

### Officeソフトとの融合

プレゼンスがUCのベースであるこ

とはすでに述べた。

UCと聞けばまず誰もがソフトフォン 電話だけでなく、メールやIM、ビデオ会議等の複数の通信アプリケーションを単一のインターフェースから利用できるクライアントソフトである場合が少なくない を思い浮かべる通り、ソフトフォンでは大概、ネットワーク内のデバイスの状況(通話可/付加など)とともに、各人の在席情報が表示されている。

ソフトフォンは、各社の製品の差異が一見して理解し難いこともあり、ややもすると「UCのデモツール」であるかのように捉えられがちだ。だが、より円滑なコミュニケーションを実現するために、確実に進化している。

現在のUC製品のトレンドの1つとして、このプレゼンス/ソフトフォンの機能と、情報系アプリケーションとの連動が挙げられるだろう。

その代表例が、07年11月から提供開始されたマイクロソフトのUC製品「Office Communications Server 2007 (OCS2007)」だ。その最大の特徴は、使いなれたMicrosoft Officeアプリケーションとコミュニケーショ



【写真1】OCS2007の導入により、Outlookの画面上で、差出人のプレゼンス、予定等が確認できる



【写真2】OKIの「Com@WILLソフトフォンコーディネーター」。右側のランチャーが本体で、各ボタンをクリックすると、通話相手から届いたメールの検索、関連データを納めたフォルダの表示などが行える。下部のボタンには、自由にアプリケーションのショートカットを登録できる